

こんなスポーツ楽しんでま～す！

スポーツの秋。身近な地域で楽しめている、比較的新しいスポーツを紹介します。高齢者や未経験者にも参加しやすい競技が多いようです。あなたも今年の秋、健康づくり、仲間づくりをかねて「自分にピッタリのスポーツ」を新たに探してみてはいかがでしょうか？

バトテニス

つるせ台小学校体育館で活動している「つるせ台バトテニスクラブ」を見学させてもらった。聞かないスポーツなので興味を持って出かけた。気温が30度を超える中、夜7時から2時間、皆さん熱心に実戦形式で球を追っている。

ラケットはジュニア用のテニスラケットを使用する。ボールはテニスの球とほぼ同じ大きさだが、柔らかいスポンジボール。2mの高さにネットを張り、1チーム2人でプレイするダブルスが一般的なので、パートナーと息を合わせてプレイすることが大切だ。

クラブは5年前に設立され、現在は20代から70代までの、ご夫婦4組を含めた27人で活動。テニスのような楽しさと、取り組み易さがあると思った。

ボールが柔らかいので、強打すれば良いわけではなく、力をセーブしながら打ち合っているように見えた。非力な年配者に向いている。しかし、バドミントンと同じようにコートが広く、前後左右の動きがあるので運動になる。お話を伺った方は全員が「楽しい！」と汗を流しながら答えてくれた。

今回、「つるせ台バトテニスクラブ」を見学して富士見市発祥のとても誇れるスポーツとの印象を持った。

市内には現在5団体があり、約70人の人たちがバトテニスを楽しんでいる。多くの市民に知って欲しい。

サウンドテーブルテニス

サウンドテーブルテニスとは、視覚障がい者が楽しめる卓球。転がると音がするボールや枠のついた専用の卓球台を使う。プレイヤーは耳を澄ましてボールの位置を把握して打ち返し、ラリーを続ける。とても繊細な感覚が必要だ。

そんなサウンドテーブルテニスについて取材するため、猛暑日の7月日曜日、サークル「ふじみS.T.T」の練習を鶴瀬西交流センターで見学させていただいた。鶴瀬西交流センターには普通の卓球台しかないため、卓球台の周りにお手製の木材を取り付けてボールが落ちないようにする。ボールが転がるほどの空間をあけて真ん中にネットを張る。ラケットには、音が出るように、ラバーが張られていない。

ラリーは視覚障がい者と健常者が組んで練習していた。その方がラリーが続いて楽しいという。

本格的な試合では細かなルールがあり、音が聞こえなくなるので声を出しての応援はできないが、練習は和気あいあいと冗談を言いながら進む。

代表の菅野さんは「身近なところで、仲間とスポーツを楽しみたい」と大勢の方の参加を願っている。

※ふじみS.T.T.は現在会員を募集しています！
連絡先：菅野さん 090-3311-6639



(左) 卓球台に特製の木枠を取り付ける (右) ネットは空間を開けて張る (下) 初心者でもラリーを気軽に楽しむことができた

ユニカール

カーリングは、冬季オリンピックで日本選手が大活躍し、多くの人が観戦、興奮されたことだろう。

「ユニカールはカーリングの室内版の、スウェーデン生まれのレク・スポーツで、子どもから高齢者まで楽しめる競技の一つです。鶴瀬西・上沢地区社協の文化部事業として予定されています。また、健康増進スポーツ大会への採用を要望しています」と語る古賀さん。氷の上ではなく専用のマットの上で、合成樹脂のストーンを滑らせるこの競技を、富士見市に広めたいと願っている。



グラウンドゴルフ

グラウンドゴルフの特徴は、ホールの代わりにホールポスト（写真右下）にボールを入れることと、ゲーム中のジャッジは原則本人が行うことだ。

あさひクラブの平川さんに魅力をうかがった。

「今や高齢者のメジャースポーツと言えばグラウンドゴルフ。たった一本のクラブとボール一個さえあれば、天下向こうのプレイヤーに。痛かった足腰でさえ、一度グラウンドに立てば曲がった腰が伸び、無意識のうちに足が前に前に、時にはボールを追って走り出す『魔法のスポーツ』」。

何よりも楽しむことを優先し、仲間のプレイヤーと相和して、自分の行動を律し、ルールとマナーを守り、成績を自己申告。ズルやごまかしをしないフェアプレーそのものが、いつの間にか日常生活での『生きがい』となっています。しゃれたスポーツウェアでの笑顔とお喋りが絶えない活動！これがグラウンドゴルフの魅力です。」

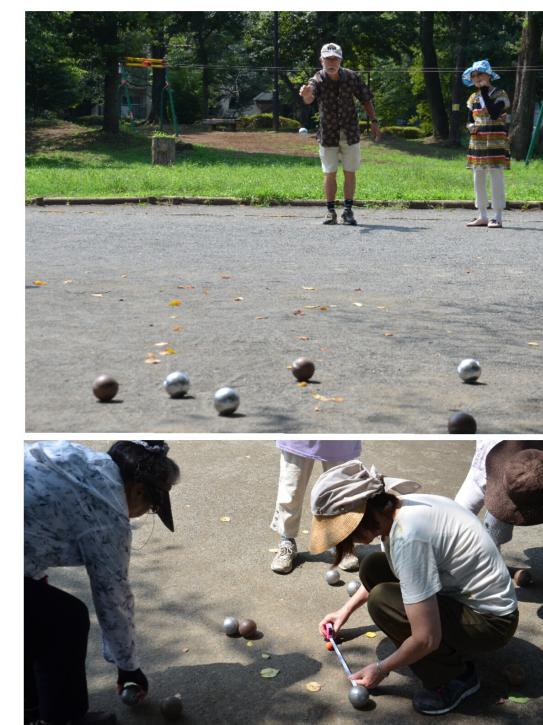


ペタンク

フランス発祥の競技ペタンクは、1チーム2～3人で行う。コートの上に円を描き、その中から、先に投げた赤い小さな球（ビュット、目標球）に向かって金属製の球を投げ合って、相手チームより近くに投げることを競う。子どもから高齢者まで幅広い年齢層の方が楽しめるのが魅力だ。

富士見市では、平成19年4月に富士見市ペタンク連盟が発足した。最近では、8月4日（土）に閑沢小学校隣の唐沢公園で大会が開かれ、約20人が参加した。

連盟の発足に関わった簗戸さんは、「ペタンクを通して、健康増進と地域の交流を図る目的で結成されました。発足当初は会員数100人を目標としていましたが、いまだに60人ほどにとどまっています。今回の記事をきっかけに仲間の輪が広がることを大いに期待しています」と語る。



ビュット（目標球）は手のひらにのるほどの小さな赤い球（計測する人の右手側にある）